

1 ねらい

○生物とそれを取り巻く自然の事物・事象に対する関心を高め、その中に課題を見出し、意欲的に探求する活動を通して、生命を尊重し、自然環境を保全しようとする態度を育てる。

○物理的、化学的な事物・現象について観察・実験を行い、その中にある規則性を見出し、科学的な見方や考え方を養う。

2 主な学習内容

	1 年 生	2 年 生	3 年 生	
1 学 期	<p>植物の世界</p> <p>身近な生物を観察しよう 植物の生活とからだのしくみ</p> <p>1. 花のつくりとはたらき</p> <p>(1) 花のつくりとはたらき</p> <p>(2) 裸子植物と被子植物</p> <p>2. 根・茎・葉のつくりとはたらき</p> <p>(1) 葉のつくり</p> <p>(2) 葉と光合成</p> <p>(3) 植物と呼吸</p> <p>(4) 植物と水</p> <p>3. 植物の分類</p> <p>(1) 種子植物の分類</p> <p>(2) 種子を作らない植物</p>	<p>化学変化と原子・分子</p> <p>1. 物質の成り立ち</p> <p>(1) カルメ焼きの秘密</p> <p>(2) 水に電流を流したときの変化</p> <p>(3) 物質をつくっているもの</p> <p>(4) 原子と分子</p> <p>(5) 物質と原子の記号</p> <p>2. 物質どうしの化学変化</p> <p>(1) 異なる物質の結びつき</p> <p>(2) 化学変化を原子の記号で表す</p> <p>3. 酸素が関わる化学変化</p> <p>(1) 物が燃える変化</p> <p>(2) 酸化物から酸素をとる化学変化</p> <p>4. 化学変化と物質の質量</p> <p>(1) 化学変化と質量の変化</p> <p>(2) 化合するときの物質の割合</p> <p>5. 化学変化とその利用</p> <p>(1) 化学変化と熱</p> <p>(2) 私たちのくらしと化学変化</p>	<p>化学変化とイオン</p> <p>1. 水溶液とイオン</p> <p>(1) 水溶液と電流</p> <p>(2) 電解質の水溶液の中で起こる変化</p> <p>(3) イオンと原子の成り立ち</p> <p>2. 化学変化と電池</p> <p>(1) 電解質の水溶液の中の金属板と電流</p> <p>(2) 電池の中で起こる変化</p> <p>(3) 身のまわりの電池</p> <p>3. 酸、アルカリとイオン</p> <p>(1) 酸性やアルカリ性の水溶液の性質</p> <p>(2) 酸性、アルカリ性の正体とイオン</p> <p>(3) 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化</p>	
	<p>身のまわりの物質</p> <p>1. 身のまわりの物質とその性質</p> <p>(1) 物の調べ方</p> <p>(2) 金属と非金属</p> <p>(3) さまざまな金属の見分け方</p> <p>(4) 白い粉の見分け方</p> <p>(5) プラスチック</p> <p>2. 気体の性質</p> <p>(1) 身のまわりの気体の性質</p> <p>(2) 気体の性質と集め方</p> <p>3. 水溶液の性質</p> <p>(1) 物質が水に溶けるようす</p> <p>(2) 溶解度と再結晶</p> <p>4. 物質の姿と状態変化</p> <p>(1) 物質の状態変化</p> <p>(2) 物質の状態変化と体積・質量の変化</p> <p>(3) 状態変化が起こるときの変化</p> <p>(4) 蒸留</p>	<p>動物の生活と生物の変遷</p> <p>1. 生物と細胞</p> <p>(1) 細胞のつくり</p> <p>(2) 単細胞生物と多細胞生物</p> <p>2. 動物のからだのつくりとはたらき</p> <p>(1) 消化と吸収</p> <p>(2) 呼吸のはたらき</p> <p>(3) 血液のはたらき</p> <p>(4) 排出のしくみ</p> <p>(5) 刺激と反応</p> <p>(6) 神経のはたらき</p> <p>(7) 骨と筋肉のはたらき</p> <p>3. 動物の分類</p> <p>(1) セキツイ動物</p> <p>(2) 無セキツイ動物</p> <p>4. 生物の変遷と進化</p> <p>(1) セキツイ動物の出現と進化</p> <p>(2) さまざまな進化の証拠</p>	<p>生命の連続性</p> <p>1. 生物の生長と生殖</p> <p>(1) 生物の成長と細胞の変化</p> <p>(2) 無性生殖 (3) 有性生殖</p> <p>(4) 染色体の受けつがれ方</p> <p>2. 遺伝の規則性と遺伝子</p> <p>(1) 遺伝の規則性</p> <p>(2) 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用</p>	
	2 学 期	<p>身のまわりの現象</p> <p>1. 光の世界</p> <p>(1) 物の見え方</p> <p>(2) 光の反射</p> <p>(3) 光の屈折</p> <p>(4) レンズのはたらき</p> <p>2. 音の世界</p> <p>(1) 音の伝わり方</p> <p>(2) 音の大きさと高さ</p> <p>3. 力の世界</p> <p>(1) 日常生活の中の力</p> <p>(2) 力のはかり方と表し方</p> <p>(3) 圧力</p> <p>(4) 水中で働く力</p> <p>(5) 大気による圧力</p>	<p>天気とその変化</p> <p>1. 気象観測と雲のでき方</p> <p>(1) 気象の観測</p> <p>(2) 水蒸気の変化</p> <p>(3) 雲のでき方</p> <p>(4) 水の循環</p> <p>(5) 気圧と風</p> <p>2. 前線とそのまわりの天気の変化</p> <p>(1) 気団と前線</p> <p>(2) 前線の通過と天気の変化</p> <p>3. 大気の動きと日本の天気</p> <p>(1) 日本の天気の特徴</p> <p>(2) 大気の動き</p> <p>(3) 天気の変化を予想しよう</p> <p>(4) 気象災害への備え</p>	<p>運動とエネルギー</p> <p>1. 物体のいろいろな運動</p> <p>(1) 物体の運動</p> <p>(2) 力がはたらかない物体の運動</p> <p>(3) 運動の向きに力がはたらく物体の運動</p> <p>(4) 運動と逆向きに力がはたらく物体の運動</p> <p>2. 力の規則性</p> <p>(1) 力のつり合い (2) 力の合成と分解</p> <p>(3) 慣性の法則 (4) 作用・反作用の法則</p> <p>3. エネルギーと仕事</p> <p>(1) 物体のもつエネルギー</p> <p>(2) 力学的エネルギーの保存</p> <p>(3) 仕事と力学的エネルギー</p> <p>(4) 仕事の原理と仕事率</p> <p>(5) エネルギーの移り変わり</p> <p>(6) エネルギーの保存</p>
	3 学 期	<p>大地の変化</p> <p>1. 火をふく大地</p> <p>(1) 火山の姿</p> <p>(2) 火山が生み出す物</p> <p>(3) 火山活動と岩石</p> <p>(4) 火山活動による災害</p> <p>2. 動き続ける大地</p> <p>(1) 地震のゆれの伝わり方</p> <p>(2) 地震が起こるしくみ</p> <p>(3) 地震と災害</p> <p>3. 地層から読みとる大地の変化</p> <p>(1) 地層のでき方</p> <p>(2) 堆積岩</p> <p>(3) 地層や化石からわかること</p> <p>(4) 大地の変動</p> <p>(5) 身近な大地の歴史を調べる</p> <p>(6) 地層がかかわる災害</p>	<p>電気の世界</p> <p>1. 静電気と電流</p> <p>(1) 静電気の正体とその性質</p> <p>(2) 放電と電流</p> <p>2. 電流の性質</p> <p>(1) 電気の利用</p> <p>(2) 回路に流れる電流</p> <p>(3) 回路に加わる電圧</p> <p>(4) 電圧と電流と抵抗</p> <p>(5) 電気エネルギー</p> <p>3. 電流と磁界</p> <p>(1) 電流がつくる磁界</p> <p>(2) 磁界から電流が受ける力とモーター</p> <p>(3) 発電機のしくみ</p> <p>(4) 直流と交流</p>	<p>地球と宇宙</p> <p>夜空をながめよう</p> <p>1. 宇宙の広がり</p> <p>(1) 銀河系と太陽系 (2) 太陽 (3) 太陽系の天体</p> <p>2. 地球の運動と天体の動き</p> <p>(1) 天体の位置の表し方</p> <p>(2) 地球の自転と天体の動き</p> <p>(3) 地球の公転と星座の移り変わり</p> <p>(4) 季節の変化</p> <p>3. 月と惑星の見え方</p> <p>(1) 月の満ち欠け (2) 月食と日食</p> <p>(3) 惑星の見え方</p> <p>地球と私たちの未来のために</p> <p>1. 自然のなかの生物</p> <p>(1) 生態系 (2) 生態系における生物の役割</p> <p>(3) 炭素の循環</p> <p>2. 自然環境の調査と保全</p> <p>(1) 身近な自然環境の調査</p> <p>(2) 人間による活動と自然環境</p> <p>(3) 自然環境の開発と保全</p> <p>3. 自然の恵みと災害</p> <p>(1) 大地の変動による恵みと災害</p> <p>(2) 気象現象による恵みと災害</p> <p>(3) 自然の恵みと災害の調査</p> <p>4. 科学技術と人間</p> <p>(1) 科学技術の発展</p> <p>(2) エネルギー資源の利用</p> <p>(3) 放射線の性質と利用</p> <p>5. 持続可能な社会をつくるために</p> <p>(1) 地球環境の今 (2) 持続可能な社会を目指して</p> <p>(3) 私たちの身近なところでの取り組み</p> <p>(4) 地球と私たちの未来のために</p>

3 評価・評定

	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	実験・技能	知識・理解	
評価項目	①興味を示す。 ②内発的動機が生じる。 ③やる気を持つ。 ④見通しをたてる。 ⑤積極的に粘り強く取り組む。 ⑥成就感を味わう。 ⑦事象への驚きや畏怖の念を持つ。 ⑧生命を尊重する態度が身に付く。 ⑨自然環境を大切にできる態度が身に付く。 ⑩科学的により深く研究しようとする。	①問題を正しく把握する。 ②適切な観察や実験を計画する。 ③比較し、分類する。 ④数値的に把握する。 ⑤結果を予想する。 ⑥原理・法則を適用する。 ⑦推論を通して推論する。 ⑧分析的に判断する。 ⑨関連付けて総合的に判断する。 ⑩モデル化して考える。	①器具などの操作方法の理解。 ②観察・実験の計画。 ③適切な観察・実験器具の選択。 ④対照実験や条件統一の理解。 ⑤観察・実験の正しいデータの求め方。 ⑥観察・実験の結果の処理と考察。 ⑦安全に対する理解	①自然の事象・現象や物の名称についての知識。 ②自然科学で使われている記号・術語についての知識。 ③自然の事象・現象の性質や特徴についての知識。 ④自然の事象・現象の内容や働きについての知識。 ⑤科学的方法、手続き、手順についての知識・理解。 ⑥自然科学の基本概念についての知識・理解。 ⑦自然科学の原理や法則についての知識・理解。	
評価の方法	*指導過程では、 教師による観察(チェックリスト) *提出物では、 ・観察・実験レポート ・作品等 *指導後では、 ・自己評価表	・ペーパーテスト(科学的思考を問う問題) ・レポートの考察部分 *評価の視点 ・問題解決のための実験方法を考える。 ・観察・実験結果からの規則性を見いだす。 ・基準を決めて分類したり、関係づけ行ったり、共通点と相違点を見つける。 ・データを読み取って計算する等の結果を処理する。 ・因果関係から、結果を予想、類推する。	技能 <ul style="list-style-type: none"> ┌ 操作的技能 ├ (器具の選定、使い方) └ 知的技能 (計画、測定、処理、記録、考察、表現) ・操作的技能は、 パフォーマンステスト、自己評価、レポート ・知的技能は、 レポート及びペーパーテスト	定期・小ペーパーテスト ・客観式テスト ・記述式テスト ・論文体テスト による多面的・総合的評価	
評価の基準	A	・提出物の提出状況がよく、授業への取り組みが意欲的で健全な生徒	・レポートの評価でAが多く、考察力に優れ、定期テストで達成度の高い生徒	・レポートの評価でAが多く、観察・実験等の実習で用具を正しく操作し、諸テストで達成度の高い生徒	・定期テストで達成度の高い生徒
	C	・提出物の提出状況が悪く、授業への取り組みが消極的で健全でない生徒	・レポートの評価でCが多く、定期テストで達成度の低い生徒	・レポートの評価でCが多く観察・実験等の実習で用具の操作が不適切なことがあり、諸テストで達成度の低い生徒	・定期テストで達成度の低い生徒

評定は、各観点の成績を総合したものであると考えますので、以下のようにつけます。

評定	A : 3点 B : 2点 C : 1点	例
5	4 観点の合計 1 2	AAAの場合 3 + 3 + 3 + 3 = 12
4	4 観点の合計 1 0 - 1 1	AAAB、AABB、AAAC
3	4 観点の合計 7 - 8 - 9	BBBBの場合 2 + 2 + 2 + 2 = 8
2	4 観点の合計 5 - 6	BCCC、BBCC、ACCC
1	4 観点の合計 4	CCCCの場合 1 + 1 + 1 + 1 = 4

*絶対評価とは、基準に対する生徒の達成度を示すものなので、「A」や「5」の人数は決まっています。